

## 巻 頭 言

### 学としての看護福祉学

インドの賢人マハトマ・ガンジーは、社会にはびこる罪の中で特にひどい罪を「7つの社会的罪」として次のように断じている。1) 原則なき政治, 2) 道徳なき商業, 3) 労働なき富, 4) 人格なき教育, 5) 人間性なき科学, 6) 良心なき快樂, 7) 犠牲なき信仰。残念ながら昨今のわが国では、上記の, 1) がまかり通り, 2) が頻繁に露見し, 3) が恥と感じられない風潮が見受けられている。

この「7つの社会的罪」の中で、大学教育に携わるものとしてとりわけ自戒しなければならない罪は, 4) と 5) である, と私は勝手に思い込んでいる。この思い込みは時に妄想に近いものであり, 自分自身の人格は棚に上げ, 人間性は横に置いて, 周りの学生や院生に「人のこころの痛みを感じること」「受けた恩を忘れないこと」「己の恥を知ること」を度々力説して, 彼らにうるさがられている。

大学は学説を教示する場であるから, そのための研究は欠かせない。ただし, 研究が人間性なき科学に拠るものであってはならないことは自明である。まさに, 経済学者マーシャルが経済学者に必要な資質として述べた「温かい心とさめた知恵」(warm heart and cool head) は, 専門分野を超えた至言である。学としての看護福祉学を考える時, 人間性を尊重する「温かい心」と合理性を冷徹に求める「さめた知恵」は必須要件である。

看護福祉学部学会誌の発行は2回目, 本誌が第2号である。内容も多岐に亘り, 研究方法論も洗練されてきている。また, 若手の研究者に加えて, 大学院生からの投稿も増えてきたことは嬉しい限りである。看護福祉学がただ単に看護と福祉という専門分野が並立している看護・福祉学(Multi-disciplinary)から, それらが統合された真の看護福祉学(Inter-disciplinary)へと進展することを予感し祈念する次第である。

2006年3月31日

北海道医療大学看護福祉学部学会

第2回学術大会大会長 志 渡 晃 一